

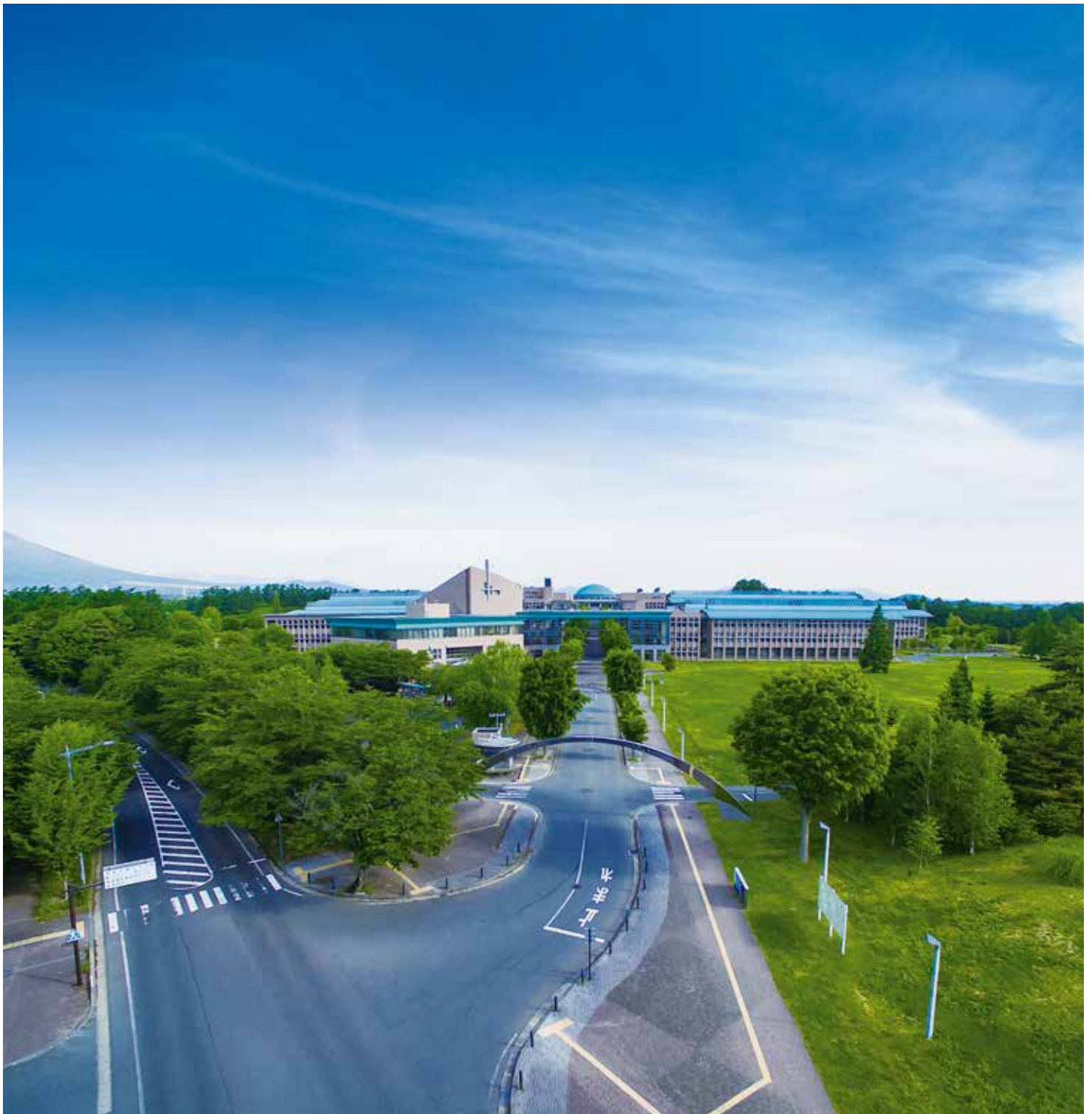


岩手県立大学
Iwate Prefectural University

岩手県立大学年報

令和4年度

Iwate Prefectural University
Annual Report 2022



「自然」、「科学」、「人間」が調和した新たな時代を創造することを願い、人間性豊かな社会の形成に寄与する、深い知性と豊かな感性を備え、高度な専門性を身につけた自律的な人間を育成する大学を目指す。

(岩手県立大学「建学の理念」)

岩手県立大学の沿革

- 1951年4月 岩手県立盛岡短期大学開学
- 1990年4月 岩手県立宮古短期大学開学
- 1998年4月 岩手県立大学開学。初代学長に西澤潤一氏が就任
- 2000年4月 大学院を開設[ソフトウェア情報学専攻博士前期課程・同後期課程/総合政策研究科博士前期課程]
- 2002年4月 大学院を開設[看護学研究科博士前期課程/社会福祉学研究科博士前期課程/総合政策研究科博士後期課程]
- 2004年4月 大学院を開設[看護学研究科博士後期課程/社会福祉学研究科博士後期課程]
- 2005年4月 公立大学法人として新たにスタート。谷口誠学長が就任
第一期中期目標・中期計画期間スタート
岩手県立大学地域連携研究センター設置
盛岡駅西口にアイーナキャンパスを開設
共通教育センター設置
- 2006年4月 中村慶久学長が就任
- 2009年4月 第二期中期目標・中期計画期間スタート
いわてものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンター(i-MOS)設置
地域政策研究センター設置
- 2013年4月 高等教育推進センター設置
- 2014年4月 共通教育センターを高等教育推進センターへ統合
- 2015年4月 鈴木厚人学長が就任
- 2017年4月 第三期中期目標・中期計画期間スタート
- 2021年4月 教職教育センター設置
- 2022年4月 教学IRセンター設置

“いわて創造人材の育成と地域の未来創造に貢献する大学”

[未来を切り拓く力を高める教育]

[未来創造に資する地域貢献]

[教育と地域貢献の根幹となる高い研究力]

岩手県立大学年報-令和4年度- 目次

■ 第三期中期目標・計画及び令和4年度業務実績	03
■ 国連アカデミックインパクト	05
■ 令和4年度地域貢献の活動状況	07
■ 令和4年度研究の活動状況	09
■ 令和4年度教育の活動状況	13
■ 令和5年度入学及び令和4年度卒業・就職の状況	15
令和5年度の入学選抜の状況	15
令和4年度の卒業生及び就職の状況	17
■ 令和4年度財務状況	19
■ 組織図	21
■ 役員	22



学生活動

3年ぶりの大学祭開催

令和4年10月29～30日に3年ぶりとなる本学大学祭「鷲風祭(しゅうふうさい)」が開催となりました。国際大会での優勝実績のあるダブルダッチサークル「ROPE A DOPE」のパフォーマンスや研究室紹介など、本学の様々な学生の活動を紹介します。イベントが多数開催されました。



学生活動

投票の啓発活動「県大Voters」

学生の投票率向上に向けた活動を行う「県大Voters」が、令和4年度の学長特別表彰と第26回参院選総務大臣表彰を受賞しました。この学生団体は、総合政策学部市島准教授のゼミ生を中心として結成されたサークルで、住民票を移していない学生に向けて不在者投票方法を伝えるブースを学内に設置したり、選挙公報で候補者を比較するイベントを開催するなど、若者の投票率向上に向けた活発な活動を行っています。



「県大Voters」の活動特集した大学紹介番組「ArchTV #16」は、二次元コードからご覧になれます。



大学運営

認証評価の受審について

岩手県立大学・岩手県立大学盛岡短期大学部・岩手県立大学宮古短期大学部は、令和4年度に公益財団法人大学基準協会の認証評価を受審し、各大学・短期大学ともに、同協会が定める大学基準(短期大学基準)に適合しているとの認定を受けました。評価結果は、本学ホームページにて公開しています。



教育

5大学合同ゼミ 東日本大震災の被災地で学びを深める取組

令和4年8月26～28日に、5つの大学の学生が東日本大震災の被災地で学び合う「5大学インゼミ」が行われ、総合政策学部役重眞喜子准教授のゼミが幹事校として企画・参加しました。本学、東北公益文科大学、福知山公立大学、京都産業大学、神戸大学による5大学混成の班に分かれて活動した学生たちは、大槌町での聞き取り調査や現地の方々との交流を通じて捉えた復興の現状や未来を「大槌リサーチプロジェクト」として発表し、学びを深めました。



教育

盛岡白百合中高とソフトウェア情報学部2研究室 教育DXで連携へ

盛岡白百合学園中高と、ソフトウェア情報学部児玉英一郎准教授と田村篤史准教授の2研究室が、令和4年8月8日に教育DX研究高大連携事業に関する協定を締結しました。この協定は、教育や研究に関し、盛岡白百合学園中高と本学2研究室との情報交換や交流、同中高への出張講義などを通じた生徒・学生の進路意識や学習意欲の向上などを目指しています。



研究

特許技術を使用した保育ドキュメンテーション作成ツールアプリを開発

社会福祉学部井上孝之准教授と岩手インフォメーション・テクノロジー社(滝沢市)が、保育ドキュメンテーション作成ツール「おがメンテーション」を開発し、2023年4月に正式リリースしました。このツールには、本学等が開発に携わった複数の特許技術が使用されています。それは、保護者に園の様子を伝えるお便り作成の簡素化と、保育のねらいを可視化した保育シーンをを用いて、保育の質向上のための園内研修を可能とするものです。詳細は二次元コードからご覧になれます。



←「おがメンテーション」の正式リリースについて

教育

地域への理解を深めるための学習「まちのフィールドワーク」実施

宮古短期大学部の学生が地域に目を向け地域への理解を深めるための学習として、令和4年10月から令和5年1月に「まちのフィールドワーク」を実施しました。学生たちは宮古短大協力を構成する近隣の市町村(宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村)に赴き、震災遺構や資料館などの視察に参加しました。



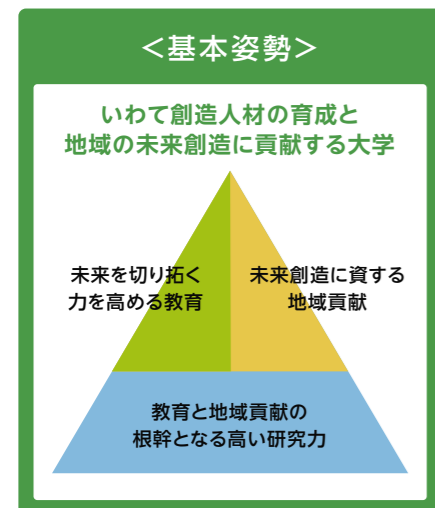
第三期中期目標・計画

“いわて創造人材の育成と地域の未来創造に貢献する大学”へ

岩手県立大学では、平成29年度から令和4年度までの6年間の第三期中期目標期間において、東日本大震災津波からの復興とその先を見据えながら、「ふるさとの未来を拓き、未来を担う人材を育む学びの府」として、第三期中期目標に掲げられている「いわて創造人材の育成と地域の未来創造に貢献する大学」を目指します。

この目標の実現に向けて、開学以来取り組んできた「**地域に根ざした実学・実践重視の教育研究活動**」に加え、開学20周年（平成30年）を契機とした教育研究組織の見直しとともに、**社会環境の変化や地域社会のニーズに対応した教育研究活動や地域貢献活動に取り組んでいきます。**

第三期中期目標



第三期中期計画における「重点的に取り組む事項」

第三期中期計画では、中期目標を達成するために教育、研究及び地域貢献の各分野で重点的に取り組む事項を掲げ、全学を挙げて取組を展開しています。

教育

全学的な教学マネジメントの下、各学部の特性に応じた「いわて創造人材」を育成

POINT

いわての「未来を創造する人材」を育成するため、産業界・地域等との連携の下、いわてをフィールドとした地域志向教育の充実と学生の主体的学修を促す能動的学習の推進

研究

教育と地域貢献を支える研究活動の強化

POINT

いわての「豊かなふるさと」の創生を支えるための戦略的な研究活動の強化

地域貢献

地域の「知の拠点」として、地域の課題解決とグローバル化に対応

POINT

いわての「グローバル化」を促進するための多様な文化や価値観の理解促進支援ネットワークの構築

令和4年度業務実績評価

県地方独立行政法人評価委員会からは、年度計画に掲げる45項目のうち、AA評価(特筆すべき進行状況にある)が4項目、A評価(計画どおり進んでいる)が38項目、B評価(おおむね計画どおり進んでいる)が3項目とされ、「おおむね計画どおり進められたと認められる」との評価結果が示されました。

具体的には、文理融合データサイエンスプログラムの開始、

学生への経済的支援の充実や学生の政治参加促進の活動、リカレント教育やプログラミング教室等の開催による地域貢献、広報方針の作成や3年ぶりの対面型オープンキャンパスの開催等の広報活動に成果がありました。一方で、学生の能動的学習を促すための取組については引き続き検討を進めることとしています。

教育

全学的な教学マネジメントの下、各学部の特性に応じた「いわて創造人材」を育成

- 文理融合データサイエンスプログラムの開始や数学学習相談室の開講
- 本学独自の新たな給付奨学金の創設
- 「岩手県立大学明るい選挙推進サポーター県大Voters」による学生の政治参加を促進するための活動が総務大臣表彰を受賞
- 「岩手県内インターンシップ推進コミュニティ」の構築・運用による県内関係団体との連携の強化

研究

教育と地域貢献を支える研究活動の強化

- 県との連携による「北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクト」における北いわて地域を対象とした研究活動の推進
- 最新のIT技術を活用した新製品・サービスの創出に向けた産学官による研究交流会「コンバージェンス@いわてイノベ」の開催による企業との連携交流の推進

地域貢献

地域の「知の拠点」として、地域の課題解決とグローバル化に対応

- 学部等の特色を生かしたリカレント教育の実施
- 児童生徒を対象としたプログラミング教室を開催し、受講した生徒が「中高生国際Rubyプログラミングコンテスト」で最優秀賞を受賞
- 防災復興支援センターの令和5年4月の設置決定や「復興防災学習プログラム」の開始

業務運営等

教育研究活動を支える自主的・自律的な法人運営

- 広報方針の策定や統一的なブランドイメージの発信に向けた「岩手県立大学タグライン」の制作開始
- 健康診断やメンタルヘルスチェックの結果を踏まえたセミナーの開催
- 学校教育法に基づく認証評価機関による評価の受審及び適合評価の受理

第三期中期目標期間業務実績評価(平成29年度～令和4年度)

県地方独立行政法人評価委員会からは、第三期中期目標に掲げる7つの目標のうち、「教育」「地域貢献」「業務運営」「自己点検・評価・改善及び情報の提供」がA評価(目標を達成した)、「研究」「財務」「その他業務運営に関する重要目標」がB評価(目標をおおむね達成した)とされました。

このことから、いわて創造人材を育成する教育、新たな価値を創造する研究、地域の「知の拠点」としての地域貢献の取組が順調に進み、様々な改革・工夫により効率的・機動的に大学運営が行われているなど、一定の成果を挙げていると判断され、「第三期中期目標をおおむね達成したと認められる」との評価結果が示されました。

■ 概要

本学は、2019年5月、国連アカデミック・インパクト(以下「UNAI」という。)に加盟しました。UNAIは、各大学が社会貢献を進めながら、国連と世界各国の高等教育機関の活動を連携させることを目的としたプログラムです。本学は、UNAIに関連する様々な教育研究、地域貢献活動を行っていることから、UNAIの10原則のうちの4原則に参加しています。

- 原則6：人々の国際市民としての意識を高める
 - 原則8：貧困問題に取り組む
 - 原則9：持続可能性を推進する
 - 原則10：異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く
- 【参考】国連アカデミック・インパクトJapanのウェブサイト
これらの4つの原則は、本学の建学の理念と合致しています。



■ 活動報告書

◆ 活動報告書とは

UNAIの加盟大学は、UNAIの10原則のうち、各年度に少なくとも1つの原則に係る活動を実施し、UNAI事務局に報告することとされています。

◆ 岩手県立大学の活動報告書

本学でもこれまでのUNAIに関連する活動について、活動報告書を取りまとめ、本学の公式ウェブサイトに掲載しています。



岩手県立大学のホームページトップ画面から、「国際交流」のページを参照。

1 滝沢市との健康推進活動

岩手県立大学看護実践研究センター センター長 福島裕子、委員長 高橋有里、副委員長 遠藤良仁

事業A：谷地和加子、遠藤良仁、金谷掌子、蘇武彩加、山内侑里、福島裕子

事業B：三浦奈都子、高屋敷麻理子、アンガホッフア司寿子、及川陽子
事業C：藤澤由香、高橋有里、鈴木美代子、藤澤望、小向敦子、高岩奈津美(以上、すべて看護学部教員)

岩手県立大学看護実践研究センターでは、2021年から滝沢市と協働し住民の健康推進活動に力を入れ、中心に取り組む5つの事業を立ち上げました。今回は3つの事業について紹介します。

(1) 事業A 母子健康活動に活かせる資料検討活動

滝沢市では新型コロナウイルス感染拡大により母子保健活動が制限され、沐浴体験や両親学級等に参加ができない妊産婦への支援に向けた資料の検討が課題として挙げられました。2021年は、妊娠届時に配布するリーフレットと出生届時に配布するリーフレットの2種類を滝沢市と協働で作成しました。

また、沐浴動画を作成し、各々のリーフレットに二次元コードで読み取って視聴できるように工夫しました。2022年は、作成した資料を評価するためのアンケート調査を実施しました。



事業A：沐浴動画(手順編)

(2) 事業B 健康ダンス「イ・ン・ダ」椅子バージョンの普及活動

滝沢市の健康ダンス「イ・ン・ダ」は元々、60歳未満の運動習慣のない方々のために作成された速い動きのダンスですが、高齢者も安全に踊れるよう2021年に看護学部学生が「イ・ン・ダ」椅子バージョンを考案しました。2022年は学生を中心に普及活動に取り組みました。



事業B：腰をねじったり、上下肢を同時に動かす運動

(3) 事業C 健康のためのウォーキング促進活動

看護学部の有志の学生・教員が参画し、市民の健康増進とQOLの向上に寄与するため2021年から年2回のウォーキングイベントを企画し活動しています。

2022年は健康ダンス「イ・ン・ダ」との合同イベントで計28名の滝沢市民の参加者を募ることができました。

2 岩手県内看護師を対象とした糖尿病・慢性疾患看護とがん看護の質向上に向けた取り組み

岩手県立大学看護学部成人看護学分野 内海香子、細川舞、高屋敷麻理子、藤澤由香、及川紳代

(1) 糖尿病・慢性疾患看護の質向上に向けた取り組み

①糖尿病看護に関する研修会

糖尿病に携わる看護職・医療職者を対象に、糖尿病看護に関する新しい知識や情報の獲得、県内の糖尿病看護に携わる看護職や医療職者のネットワークづくりを目的として、2006年から岩手県糖尿病看護研修会、2007年から東北糖尿病スタッフ教育セミナー、2008年から岩手県糖尿病看護研修会沿岸地区セミナーを継続しています。

②慢性疾患看護に関する研修会

大学院慢性疾患看護専門看護師(以下、CNS)コース修了者を中心に、フォローアップとして、東北慢性疾患看護研究会を開催し、事例検討会、慢性疾患看護CNSによる一般ナースを対象とした事例検討会、看護研究の勉強会を実施しています。

(2) がん看護の質向上に向けた取り組み

①がん看護相談ステーション

岩手県内のがん医療・がん看護の充実のため、大学に勤務するがん看護専門看護師が2020年から北岩手・三陸地域で活動する医療職者に対して、がん看護相談ステーションを開設し、月2回、遠隔システムで相談業務を行っています。



がん相談ステーション(大船渡)で開催した訪問看護師との事例検討会

②岩手がんを考える会

2021年から、県内の専門看護師・認定看護師と協働して「岩手がんを考える会」を立ち上げ、継続的に医療従事者向けに、緩和ケアやがん看護、臨床倫理などに関連した研修会をWebや現地開催で行っています。

③ELNEC-J(Web)研修会事業

日本緩和医療学会の教育事業として確立されているELNEC-Jの研修会(全4回)を、遠隔会議システムを利用して2021年から継続的に開催しています。

④遠隔会議システムを利用したがん看護研修事業

2022年から、がん看護の啓発事業として、一般ナースを対象とした研修会を行っています。

3 海岸・河川漂着物の実態調査のためのプラットフォームとなるシステムの開発

岩手県立大学ソフトウェア情報学部 講師 富澤浩樹

岩手県環境生活部資源循環推進課

㈱Badass 代表取締役 田中裕也

岩手県立大学研究・地域連携本部地域連携コーディネーター 渋谷晃太郎

岩手県では、「第2期岩手県海岸漂着物対策推進地域計画」(2023年3月)を策定し、海洋プラスチックごみの排出抑制のためには、沿岸部はもとより、全県的な環境美化活動の推進が必要であること、多様な担い手の確保の観点から、県民総参加型の自然環境保全活動可視化のためのシステム構築を目指しています。

本研究チームでは、ソフトウェア情報学部学生とともに、海岸・河川漂着物の実態調査のためのプラットフォームとなるシステムと、県民参加を促すためのデータ投稿用アプリケーションの試作を段階的に行ってきました。

2022年は、これまでの研究に基づいて、システムコンセプトの確立、現地調査、モニタリングデータ収集・可視化用のWebシステムの試作を行いました。また、システムへの日常的なデータ投稿をコンセプトに試作されたスマホ向けアプリケーションが、12月に東京ビックサイトで開催された「エコプロダクツ2022」において展示されました。



「エコプロダクツ2022」での様子

4 重症心身障がい児(者)のための衣生活向上プロジェクト—脳性麻痺患者が院内で利用する衣製品デザインの提案—

岩手県立大学盛岡短期大学部 准教授 佐藤恭子、講師 齋藤愛
独立行政法人国立病院機構盛岡医療センター 主任児童指導員 小山直也
生活科学科デザイン専攻1年(2022年度) 秋本玲奈、上方明梨、瀧本百夏、千葉美瑠、堀口紗希、松森咲良

重症心身障がい児(者)は、変形や拘縮の症状が著しく、患者の症状もさまざまであることから、患者の症状や、年齢、好みに合わせて衣服を選択することが容易ではありません。そのためサイズの大きな既製服

を代用したり、家族が家庭裁縫で作ることで身体の症状に対応させた衣料を用意しているのが現状です。



デザイン画と完成品の一部

岩手県立大学盛岡短期大学部生活科学科生活デザイン

専攻は、国立病院機構盛岡医療センターの依頼を請け、重症心身障がい児(者)の衣生活向上へむけたデザイン・制作に取り組みました。この取り組みは、生活デザイン専攻の被服を学ぶ有志学生6名、医療センターの児童指導員、看護師、保育士、教員が協同し、患者の個性や特性に合わせた介護医療のデザイン・制作を実施しました。

完成した制作物は家族・職員を病棟に招いたファッションショーで披露しました。

5 学生サークルMarbleと盛岡市が協働でジェンダー平等を目指す性の多様性促進パンフレット作成

岩手県立大学盛岡短期大学部 准教授 熊本早苗

本学の性の多様性の理解促進を行う学生団体Marble(マーブル)は、盛岡市の公募型協働推進事業(テーマ設定型事業)に応募し、「性別や性的指向、性自認等についての冊子作成プロジェクト」事業として採択されました。

盛岡市の男女共同参画室と協働で、LGBTQ+等、性別や性的指向、性自認等についての啓発冊子を作成し、SNS等を活用して広く周知することで、性の多様性についての理解と関心を高め、性的マイノリティに対する差別や偏見を解消する一助としました。

学生たちは「一人ひとりの性は、どれ一つとして同じものではなく、唯一無二の個性」であることを伝え、多くの方に性の多様性を知ってもらうため、ジェンダーやセクシュアリティに関する用語を分かりやすく解説や図式化し、なおかつ、ハラスメントや無意識の差別、性的マイノリティへの理解促進について若者目線でパンフレットを作成しました。作成したパンフレットは、盛岡市内の公共施設に配架していただいた他、盛岡市の公式ホームページからダウンロード可能としました。



制作したパンフレット

6 復興防災学習プログラム

復興防災学習プログラム運営チーム

高等教育推進センター 石堂淳、江村健介

総合政策学部 杉安和也

盛岡短期大学部 千葉啓子、熊本早苗、吉原秋、Hamish Smith、Patrick Maher

飲料水ペットボトル配布活動(通称「水ボラ」)は、2011年3月に発生した東日本大震災津波被害に対する支援物資として岩手県に寄せられた飲料水のペットボトルを、被災者が居住する仮設住宅に手渡しで届けたことから始まりました。

2022年には、サービスマーケティングを中心とした防災学習「復興防災学習プログラム」に位置づけを進化させ、被災から約10年を経て完成した高田松原津波復興祈念公園と岩手県立野外活動センターを中心会場として、4団体から学生・教職員合わせて70名が参加しました。



県営栃ヶ沢アパート前で記念撮影

新たな価値を創造し、地域の未来に貢献する大学を目指して

■ 北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクトの推進

「未来創造に資する地域貢献」の取組を進めている本学では、平成31年4月に岩手県と「北いわての地域課題の解決及び産業振興に向けた連携協力協定」を締結し、いわて県民計画(2019～2028)に掲げる「北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクト」を共同で推進することとしました。そこで本学では、研究・地域連携本部に「北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクト推進センター」(センター長：研究・地域連携本部長兼務)を設置し、北いわての地域課題の解決や産業振興につながる調査・研究、人材育成などに取り組んでいます。

令和4年度は、岩手県からの受託研究のほか、令和2年度に創設した学内研究費により北いわてをフィールドとした研究活動を展開するとともに、北いわての将来を担う人材育成を目的に、高校生を対象とした出前講座等を開催しました。



一戸高等学校での出前講座の様子

■ 地域政策研究センターによる研究の推進及び市町村への支援

「実学・実践重視の教育・研究」を基本的方向の一つとする本学では、県民のシンクタンク機能のさらなる充実強化を図るため、平成23年に地域政策研究センターを設置しました。センターでは、県民が抱える課題・ニーズに「地域目線」で向き合い、多様な専門分野の研究者が、自治体やNPO、企業との協働により、地域課題を解決するための研究や市町村の地方創生の取組支援を行っています。

盛岡市と共同で設置した「盛岡市まちづくり研究所」における共同研究では、令和4年度に実施された「第13回都市調査研究グランプリ(CR-1グランプリ)」で奨励賞を受賞しました。

● 地域協働研究の推進

本学では、県内の自治体、地域団体、企業等からの提案を受け、地域課題の解決に向けた共同研究に取り組んでおり、課題解決プランの策定を支援する「ステージⅠ」(研究期間：単年度)と、研究成果を課題解決に応用するための活動を支援する「ステージⅡ」(研究期間：2か年度)を設け、それぞれの課題・ニーズに対応した研究活動を展開しています。令和4年度は、ステージⅠで31課題、ステージⅡで9課題の研究に取り組みました。

● 市町村の地方創生への取組支援

本学では、平成27年度より、市町村の地方創生の取組を支援しており、まち・ひと・しごと創生総合戦略等の策定・推進や、地方創生を担う市町村職員の政策法務能力向上等の支援に取り組んでいます。令和4年度は、7市町を対象に政策法務に係る相談対応(延べ28件)や4市町で職員向け政策法務研修(延べ12回)を実施しました。

■ 公開講座等各種講座の開催

県民の皆様への学びの場の提供と研究成果の還元を図るため、毎年夏に滝沢キャンパスで開催している公開講座は、3年ぶりに全10講座を対面で開催し、528名が受講しました。また、受講者の利便性を考慮してケーブルテレビでの放送及び動画配信サイトでの配信も併せて実施しました。各学部等では、それぞれの専門性を生かした多様な講座等を開催し、令和4年度は、全87講座に延べ1,788人の参加がありました。

また、若手技術者・学生を対象に、高付加価値・高効率型ものづくりに不可欠な先端的技術をテーマとした高度技術者養成講習会を11講座開催し、102人の参加がありました。



■ Rubyプログラミング教室の開催

児童生徒のICT活用スキルの向上と課題解決能力の育成に資するため、滝沢市立滝沢第二中学校の科学技術部員を対象に、Rubyプログラミング教室を実施しました。同部は、プログラミング教室の成果を「中高生国際Rubyプログラミングコンテスト2022 in Mitaka」のゲーム部門に応募して、2作品が一次審査を通過し、12月に行われた最終審査会において、1作品が最優秀賞を、もう1作品が審査員特別賞を獲得しました。



Rubyプログラミング教室の様子

◆ 戦略的研究プロジェクトの推進

大型・学際連携型外部研究資金の獲得を目指す、本学の「顔となる研究プロジェクト」として平成30年7月に創設。本学の特徴を生かした研究を促進するとともに、本県の産業・経済の活性化、生活レベルの向上、イノベーションの創出に貢献するため、令和4年度は、継続中の5つの研究チームが研究プロジェクトに取り組みました。

◆ 全学競争研究費による研究の推進

将来的に大型・学際連携型外部資金の獲得を目指す研究を支援するため、平成29年度に創設。「震災復興」、「人口減少対策」、「地域産業振興」、「学際分野開拓」に関するものを優先採択課題とし、令和4年度は6件を採択しました。

◆ 外部研究資金の獲得状況

令和5年度科学研究費への応募は99件、採択は19件で、採択率は39.2%(前年度38.6%)でした。また、令和4年度の共同研究、受託研究等及び奨学寄附金の獲得件数は合計45件(同3件減)、受入金額は100,609千円(同30,537千円増)でした。

◆ 看護実践研究センターの取組

県民のQOLと岩手の看護の質の向上に寄与するため、

看護職の継続教育等を実施。令和4年度は、「岩手県新人看護職員研修」に30施設から58名、各教員の専門性を活かした「専門職研修事業」には12種類に504名の参加がありました。県内病院に出向いて講師を務める「研究指導」を10施設で実施しました。また、令和3年度から取り組み始めた滝沢市への地域貢献事業では、昨年度に引き続き、ウォーキング促進活動、健康ダンス「イ・ン・ダ」の座位バージョンの普及活動、制作した両親学級に参加できない夫婦向けの沐浴動画の活用と評価など、滝沢市保健師と協働して住民の健康推進事業に取り組んでいます。令和5年度も13年目となる岩手県受託事業の「新人看護職員研修」を中心に、「専門職研修事業」「研究指導」「地域貢献事業」に取り組み、岩手県の地域住民の健康を推進する活動と共にそれを支える県内の看護専門職を支援する活動を行っていく予定です。



学生企画のウォーキングイベントで大学敷地内を参加者と共に歩く



滝沢市健康ダンス「イ・ン・ダ」座位バージョンを参加者に教え一緒に踊る

地域協働研究

地域協働研究は、地域の諸団体と本学教員が協働で、地域が抱える課題の解決に取り組む研究です。地域政策研究センターの取組として、平成24年度に創設されました。これまで取り組んできた研究課題は、教員提案型・地域提案型あわせて300課題を超えます。

平成29年度からは、研究成果をできるだけ早く地域社会に届けるしくみとして、下記のとおり研究費の制度を見直しました。

【ステージI】課題解決プラン策定ステージ

地域課題を解決する方策を策定するための調査研究の段階。

研究費：1課題当たり上限30万円(研究期間：単年度)

【ステージII】研究成果実装ステージ

地域課題を解決するために実施した本学の調査研究の成果を実際に地域に活用する活動の段階。

研究費：1課題当たり上限100万円/年(研究期間：2か年度)

詳細はこちらから



岩手県立大学
ホームページ内
地域協働研究
関連ページ

＜ステージI：課題解決プラン策定ステージ＞

※研究代表者 五十音順

看護学部

研究課題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研究期間
1 個人で継続可能な介護予防プログラムの構築	馬林 幸枝	(有)ホームセンター仙台	R4年4月～R5年3月

社会福祉学部

研究課題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研究期間
1 高齢者の街なか居住拠点計画に関する研究	狩野 徹	(株)不動産情報バンク	R4年4月～R5年3月
2 自治体における包括的支援体制整備にむけた予備的研究―「ごみ屋敷」の問題を切り口として	菅野 道生	矢巾町福祉課	R4年4月～R5年3月
3 持続可能な医療通訳者派遣制度の構築に関する研究	細越 久美子	奥州市協働まちづくり地域づくり推進課・奥州市国際交流協会	R4年4月～R5年3月
4 水福連携の沿岸全域への普及と可能性拡大に向けた研究	山岡 由美	岩手県復興防災部復興くらし再建課	R4年4月～R5年3月

ソフトウェア情報学部

研究課題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研究期間
1 ガイドシステムの周遊ログを活用した来訪者調査手法の試み	阿部 昭博	平泉町観光商工課	R4年4月～R5年3月
2 ハウス農家におけるIoTの「自給自足」実現に向けた検討	佐藤 永欣	岩手県立紫波総合高等学校(有)ホロニック・システムズ	R4年4月～R5年3月
3 自殺予防対策の相談事例の利用可能性に関する研究	富澤 浩樹	盛岡市保健所保健予防課	R4年4月～R5年3月
4 海岸漂着物等モニタリングデータの県民への効果的な提示方法に関する研究	富澤 浩樹	岩手県環境生活部資源循環推進課	R4年4月～R5年3月
5 紙ベースの従来型広報からデジタル化を含めた次世代の行政広報のあり方の検討	富澤 浩樹	矢巾町企画財政課	R4年4月～R5年3月
6 高齢者のデジタル支援を目的とした地域ICTサポート組織構築のための課題の把握と分析	西崎 実穂	盛岡市総務部情報企画課	R4年4月～R5年3月
7 盛岡における持続可能な除雪体制整備のためのエリア検討について	山田 敬三	盛岡市建設部道路管理課	R4年4月～R5年3月

総合政策学部

研究課題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研究期間
1 盛岡中心市街地再開発と戦略的公共交通網の構築による持続可能な地方都市モデルの形成と検証【第2弾】―盛岡バスセンター・monaka再開発と、LRT・公共交通のベストミックス―	宇佐美 誠史	もりおか交通まちづくりLRTフォーラム	R4年4月～R5年3月
2 「婚活」から拓く「混活」まちづくりの実践調査と分析―多様性を触発する中で山田町から仕事・移住・結婚施策の事業創出に向かう―	倉原 宗孝	山田町若手職員施策等研究会	R4年4月～R5年3月
3 学生就学支援と地域コミュニティ育成を結び空き住戸活用の実践研究	倉原 宗孝	岩手県県土整備部 盛岡市総務部 もりおか復興支援センター	R4年4月～R5年3月
4 岩手県内における気候変動の影響とその適応策に関する調査研究	佐野 嘉彦	岩手県環境生活部環境生活企画室	R4年4月～R5年3月

研究課題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研究期間
5 自治体DX時代の総合計画の進行管理の在り方について	杉谷 和哉	盛岡市長公室企画調整課	R4年4月～R5年3月
6 大規模災害時に、県及び市町村が連携して応急対応や復旧・復興を円滑に進めるための事前復興の取組の推進	杉安 和也	岩手県復興防災部	R4年4月～R5年3月
7 消防団を中核とした地域防災力の充実強化～消防団員の担い手不足を解消するには～	杉安 和也	花巻市消防本部	R4年4月～R5年3月
8 湧水・汽水の混在する湿地ビオトープの水域および植生管理計画策定	辻 盛生	三陸自然学校大槌	R4年4月～R5年3月
9 県南圏域の人口流入・流出の要因分析及び人口減少対策に関する研究	堀籠 義裕	岩手県南広域振興局	R4年4月～R5年3月
10 日詰商店街における店主の魅力に注目した地域の価値創造	三好 純矢	日詰商店会 日詰みらいプロジェクト	R4年4月～R5年3月
11 久慈地下水族科学館もぐらんぴあの魅力化促進と誘客策の検討―三陸沿岸道路全線開通及び広域道の駅開業を見据えて―	三好 純矢	(有)あくあぶらんつ	R4年4月～R5年3月
12 人口減少地域における自治会の地域運営組織化と集落支援員の活動育成に関する研究	役重 眞喜子	西和賀町ふるさと振興課	R4年4月～R5年3月

高等教育推進センター

研究課題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研究期間
1 宮古市における地域ぐるみでのキャリア教育の体系的な展開	渡部 芳栄	NPO法人みやこベース	R4年4月～R5年3月
2 地域課題解決に高校生等が参画することによるシビックプライドの醸成と教育的効果	渡部 芳栄	盛岡市長公室企画調整課都市戦略室	R4年4月～R5年3月

盛岡短期大学部

研究課題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研究期間
1 服地としてのホームスパンの素材価値に関する調査	佐藤 恭子	(株)クラシカウンスル	R4年4月～R5年3月

宮古短期大学部

研究課題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研究期間
1 持続可能な観光資源の有効活用およびニーズ分析	大志田 憲	(一社)宮古観光文化交流協会	R4年4月～R5年3月
2 宮古市の地域色を活用したシティプロモーションの手法に係る研究	大志田 憲	宮古市企画部企画課地域創生交流推進室	R4年4月～R5年3月
3 エシカル消費推進に係る事業者課題に関する研究	鈴木 将人	岩手県立県民生活センター	R4年4月～R5年3月
4 女性の社会増に向けた効果的な施策形成のための調査研究	松田 淳	宮古市企画部企画課地域創生交流推進室	R4年4月～R5年3月

＜ステージII：研究成果実装ステージ＞

※所属別、研究代表者 五十音順

研究課題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研究期間
1 未就学児の親子を対象とする教育福祉の複合的読書支援プログラムの実践	櫻 幸恵 (社会福祉学部)	北上市立中央図書館	R3年4月～R5年3月
2 保育施設と自治体を結ぶICTの実証的研究―広域給付システムへの対応―	井上 孝之 (社会福祉学部)	岩手県保健福祉部 盛岡市子ども未来部	R4年4月～R6年3月
3 多様な来館者ニーズに対応した野外美術館ガイドシステムの開発と実用化	阿部 昭博 (ソフトウェア情報学部)	石神の丘美術館	R3年4月～R5年3月
4 小中学校児童生徒のプログラミング的思考の育成へ向けた取組について	市川 尚 (ソフトウェア情報学部)	滝沢市教育委員会	R3年4月～R5年3月
5 地域介護福祉事業者のデジタル技術活用による介護現場の効率化と働き方改革―社会実装を意図したPoCの実施とプロトタイプ開発―	植竹 俊文 (ソフトウェア情報学部)	岩手県北広域振興局 社会福祉法人いつつ星会 (株)航和	R4年4月～R6年3月
6 和賀川流域における地域課題解決のための「3D流域ジオマップ」の構築と官民参加による運用の実践	土井 章男 (ソフトウェア情報学部)	西和賀淡水漁業協同組合	R4年4月～R6年3月
7 歴史文化から耕す地方都市における住民主体・連携によるまちづくりの実践とモデル構築	倉原 宗孝 (総合政策学部)	紫波歴史研究会	R3年4月～R5年3月
8 県内中小企業におけるデザイン活用に関するモデルの社会実装とインフラ構築―岩手発(地方版)デザイン経営モデルと支援システムの確立	三好 純矢 (総合政策学部)	地方独立行政法人岩手県工業技術センター	R3年4月～R5年3月
9 盛岡広域地方創生SDGs登録等制度の構築に係る調査研究	新田 義修 (総合政策学部)	盛岡市長公室	R4年4月～R6年3月

■ 科学研究費助成事業

科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金/科学研究費補助金)は、人文学、社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」(研究者の自由な発想に基づく研究)を格段に発展させることを目的とする「競争的研究費」です。ピアレビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行います。

本学では、応募申請に対する支援体制を整えるなど、採択率向上に向けた取組を行っています。

詳細はこちらから



科学研究費助成事業データベース「研究機関」に「岩手県立大学」と入力して検索。

※研究種目別、研究代表者 五十音順

看護学部

研究種目	研究課題	本学における研究代表者
1 基盤研究(C)(基金)	学児を希望する有配偶女性に対するリプロダクティブライフプランニング支援の構築	アンガホフファ 司寿子
2 基盤研究(C)(基金)	マルチモビリティと生きる前期高齢者のセルフケアを支援するための援助指針の開発	内海 香子
3 基盤研究(C)(基金)	抗癌剤漏出に関する調査とステロイド局所注射の作用を中心としたケアの実証的研究	及川 正広
4 基盤研究(C)(基金)	特別支援学校以外の学校における医療的ケア必要児童生徒への支援システムモデルの構築	大久保 牧子
5 基盤研究(C)(基金)	訪問看護ステーションと自治体との連携を強化するための研修プログラムの開発	工藤 朋子
6 基盤研究(C)(基金)	コアコンピテンシーを学修目標とした看護学実習アセスメントのシステム開発	工藤 真由美
7 基盤研究(C)(基金)	患者にとって安全で苦痛のないフラッシング技術の実態調査および実証実験による検証	小向 敦子
8 基盤研究(C)(基金)	地域の中小規模病院で働く臨床看護師の研究支援プログラムの開発	鈴木 美代子
9 基盤研究(C)(基金)	油性徐放性製剤の筋肉内注射により発生する硬結を予防するための看護ケア方法の確立	高橋 有里
10 基盤研究(C)(基金)	助産師と協働した児童養護施設のリプロダクティブ・ヘルスケア実施体制の構築と検証	福島 裕子
11 基盤研究(C)(基金)	筋肉内注射の確かな刺入深度に基づく看護技術の確立	藤澤 望
12 基盤研究(C)(基金)	糖尿病性腎症初期患者に対する患者教育プログラムの開発と実践適用	藤澤 由香
13 基盤研究(C)(基金)	終末期がん患者の倦怠感軽減ケアプログラムの開発と臨床応用	細川 舞
14 基盤研究(C)(基金)	内分泌療法を受ける乳がん女性へのセクシュアル・ヘルスケアモデルの開発と評価	谷地 和加子
15 若手研究(基金)	正確で簡便な看護業務時間測定と評価による業務改善システムの検証と実装に向けた研究	岡田 みずほ
16 若手研究(基金)	新任期保健師の内発的動機付けを促すピアサポートシステムの構築	尾無 徹
17 若手研究(基金)	地域に根ざした小児在宅ケアに向けた看護職の協働促進モデルの構築	原 瑞恵

社会福祉学部

※研究種目別、研究代表者 五十音順

研究種目	研究課題	本学における研究代表者
1 基盤研究(C)(基金)	災害派遣福祉チームのリーダー活動の標準化に向けたリーダー養成研修プログラムの開発	伊藤 隆博
2 基盤研究(C)(基金)	障害者雇用における障害者に対する合理的配慮提供モデルの構築	小澤 昭彦
3 基盤研究(C)(基金)	障害のある従業員に対する職場での配慮における事業主の意思決定モデル	小澤 昭彦
4 基盤研究(C)(基金)	精神障害者の地域生活支援におけるクライシス・プランの実践と研修プログラムの開発	狩野 俊介
5 基盤研究(C)(基金)	アイトラッキング装置を用いた感情の影響による購買意思決定の情報探索の検討	菊地 学
6 基盤研究(C)(基金)	非正規雇用スクールソーシャルワーカー(はどうぶが)専門性形成と実践コミュニティ	櫻 幸恵
7 基盤研究(C)(基金)	参加型評価アプローチによる小地域を基盤とした「地域福祉形成力」評価モデルの開発	佐藤 哲郎
8 基盤研究(C)(基金)	自閉スペクトラム症幼児の就学前教育・保育施設における園生活リスクとリスク評価分類	佐藤 匡仁
9 基盤研究(C)(基金)	対象の非人間化による共感抑制過程に関する研究	田村 達
10 基盤研究(C)(基金)	プレグジット後のイギリスの医療・福祉サービスの再編	日野原 由未
11 基盤研究(C)(基金)	マルチリトメント防止のためのクライシス・プランを応用した支援プログラム開発	三上 邦彦
12 若手研究(B)(基金)	自主防災組織の形成にみる選択とその論理-住民の日常的営為に着目して	庄司 知恵子
13 若手研究(基金)	災害派遣福祉チームによる被災地でのソーシャルワーカー活動モデルの開発に関する研究	伊藤 隆博
14 若手研究(基金)	中山間地域等における子ども虐待対応の調整機能強化に関する研究	實方 由佳
15 若手研究(基金)	シェアリングエコノミーにおける個人請負労働者の労働者保護の範囲に関する研究	柴田 徹平
16 若手研究(基金)	子ども支援・教育者に対するトラウマインフォームドアプローチに基づく心理教育の構築	瀧井 美緒
17 若手研究(基金)	トランスナショナルな福祉サービス供給体制の構築	日野原 由未
18 若手研究(基金)	大都市在住高齢者によるボランティア活動を促進する活動年数別による支援内容の検討	本間 萌
19 若手研究(基金)	音楽学習者のための「聴く力」の育成: エドガー・ウィレムスの音楽教育実践に着目して	若林 一恵
20 研究活動スタート支援(基金)	重大犯罪少年の処分選択に関する質的比較分析	秋本 光陽
21 研究活動スタート支援(基金)	トラウマに関するしろうと理論に着目した予防的心理教育の要因の解明	瀧井 美緒

ソフトウェア情報学部

※研究種目別、研究代表者 五十音順

研究種目	研究課題	本学における研究代表者
1 学術変革領域研究(A)(補助金)	質感運動知覚に寄与する神経基盤の解明	眞田 尚久
2 基盤研究(C)(基金)	野外ミュージアムの特徴を踏まえたデジタルマーケティング手法の実証的研究	阿部 昭博
3 基盤研究(C)(基金)	高大連携による情報科の「モデル化とシミュレーション」教育のデザインに関する研究	市川 尚
4 基盤研究(C)(基金)	ゼロ・少音声言語資源の音声処理技術の構築	伊藤 慶明
5 基盤研究(C)(基金)	組込みソフトウェアの高品質化開発手法による超スマート社会の実現	猪股 俊光
6 基盤研究(C)(基金)	激甚化する風水害の特性と財務変動を考慮した短期的リスクファイナンス評価手法の研究	大堀 勝正
7 基盤研究(C)(基金)	IoTデバイスと連携するリアクティブスケジューリング	岡本 東
8 基盤研究(C)(基金)	警告ダイアログデザインを活用したセキュリティ意識の向上および持続可能性の探求	小倉 加奈代
9 基盤研究(C)(基金)	近未来型VRライブ配信環境におけるコミュニケーション支援システムの開発	齊藤 義仰

研究種目	研究課題	本学における研究代表者
10 基盤研究(C)(基金)	視聴覚運動知覚の脳内表現の解明	眞田 尚久
11 基盤研究(C)(基金)	単語分散表現の頻度エンコード問題の解消	鈴木 郁美
12 基盤研究(C)(基金)	A novel study on visible ingredient identification in food images for food computing	戴 瑩
13 基盤研究(C)(基金)	教育から始める人間中心のセキュリティ対策手法	高田 豊雄
14 基盤研究(C)(基金)	AI技術による進路指導変革を目指した情報系学部への進路選択支援システムの開発	田村 篤史
15 基盤研究(C)(基金)	震災関連資料の利用促進を目的とした資料循環型デジタルアーカイブシステムの研究	富澤 浩樹
16 基盤研究(C)(基金)	生活環境のリアルで育む乳幼児の事故予防とその習慣化支援システム	西崎 実穂
17 基盤研究(C)(基金)	適応型映像ミキサーにより多元中継の個人視聴を高機能化する新世代仮想スタジオ	橋本 浩二
18 基盤研究(C)(基金)	実用的単眼プロジェクター型・多視点3D球体ディスプレイの開発	PRIMA・OKY・DICKY
19 基盤研究(C)(基金)	時・場所・状態を考慮した社会課題解決につながるWebパーソナライズ技術の提案	堀川 三好
20 基盤研究(C)(基金)	郷土芸能伝承のための「個」「集団」の「上手さ」の分析・可視化に関する研究	松田 浩一
21 基盤研究(C)(基金)	逆走に至る認知症スイッチ発症条件探索に関する研究	山邊 茂之
22 若手研究(B)(基金)	SS超音波を用いた人・ロボットの屋内位置情報計測・蓄積システム	鈴木 彰真
23 若手研究(基金)	赤血球膜の実構造に基づいた数値モデルの構築と破壊・損傷メカニズムへの応用	ニックス ステファニー
24 挑戦的研究(萌芽)(基金)	歌舞伎の物語生成一多重物語構造・型・芸能情報システムに基づく調査と構成一	小方 孝

総合政策学部

※研究種目別、研究代表者 五十音順

研究種目	研究課題	本学における研究代表者
1 基盤研究(B)(補助金)	多様化する地域社会の存続にコミュニティ・キャピタルが与える影響に関する研究	吉野 英敏
2 基盤研究(C)(基金)	模擬投票を活用した主権者教育プログラムの開発とその普及に関する実践的研究	市島 宗典
3 基盤研究(C)(基金)	オンライン取引における「場の提供者」の法的責任	窪 幸治
4 基盤研究(C)(基金)	防災と福祉を結ぶ(逃げる視点からの)参加のまちづくりの実践活動とモデル・理論構築	倉原 宗孝
5 基盤研究(C)(基金)	イスラーム圏ポスト・コンフリクトの統治の正統性に関する比較法的・法社会学的研究	桑原 尚子
6 基盤研究(C)(基金)	心理的效果と不完備選好に着目した選択行動の分析およびその応用	小井田 伸雄
7 基盤研究(C)(基金)	東日本大震災津波被災地における水産加工業の協業化による水産業クラスターの新展開	新田 義修
8 基盤研究(C)(基金)	震災被災地の「日常の再構築」過程における意識調査・地域社会の分断・格差に着目して	堀籠 義裕
9 若手研究(B)(基金)	開発経験からみる環境保全型地域づくりの論理	平井 勇介
10 若手研究(基金)	社会ネットワークの多次元属性に基づく職業異動結合の実態・要因解明	鈴木 伸生
11 若手研究(基金)	韓国の非正規労働者の雇用安定と処遇改善のための法制度の立法効果に関する考察	徐 命希
12 研究活動スタート支援(基金)	集団における社会関係資本の構成要素-機能間の循環的相互作用メカニズムの解明-	鈴木 伸生
13 特別研究員奨励費(補助金)	災害遺構を巡る住民の語りをもとにした集積的記憶形成過程の分析	坂口 奈央

盛岡短期大学

※研究種目別、研究代表者 五十音順

研究種目	研究課題	本学における研究代表者
1 基盤研究(C)(基金)	有賀同族団論の再検討:歴史社会学とコモンズ論の観点から	三須田 善暢
2 若手研究(基金)	屋外使用木材の耐用年数評価のための湿度・水分暴露量と腐朽の関係式の構築	大澤 朋子
3 若手研究(基金)	20世紀初頭フランス女性の近代的女性観形成における東洋趣味モードの影響	佐藤 恭子

宮古短期大学

※研究種目別、研究代表者 五十音順

研究種目	研究課題	本学における研究代表者
1 基盤研究(C)(基金)	東北地方北部地域の方言アクセント区画に関する研究	田中 宣廣
2 若手研究(基金)	製品機能のオーバーシュートに関する経験的研究	鈴木 将人

高等教育推進センター

※研究種目別、研究代表者 五十音順

研究種目	研究課題	本学における研究代表者
1 基盤研究(C)(基金)	イエズス会布教活動から紐解くジェイムズ・ジョイスの東方への旅	伊東 栄志郎
2 基盤研究(C)(基金)	東北方言のヴォイスから見た日本語の述語膠着性	高橋 英也
3 基盤研究(C)(基金)	米国フェミニズムにおける多様性概念の形成とプエルトリカンジェンダー	三宅 静子
4 基盤研究(C)(基金)	中国農村資源の村集団経営による村の福祉力と高齢者の老後生活保障に関する実証研究	劉 文静
5 基盤研究(C)(基金)	On Raising from NP--One Rule of English Grammar and Its Theoretical Implications	ルプンヤ コルネリア
6 基盤研究(C)(基金)	政策評価分析による公立大学法人制度の評価の試み	渡部 芳栄
7 若手研究(B)(基金)	単元学習・プロジェクト型学習・新教科開発に見る教師の「カリキュラム意識」の研究	畠山 大
8 若手研究(基金)	シンティ・ロマの包摂と排除をめぐる歴史研究:ナチスと戦後西ドイツ社会	大谷 実
9 研究活動スタート支援(基金)	1960年代から70年代のトルコ共和国における国民像の転換と宗教教育	上野 愛実

研究・地域連携本部

※研究種目別、研究代表者 五十音順

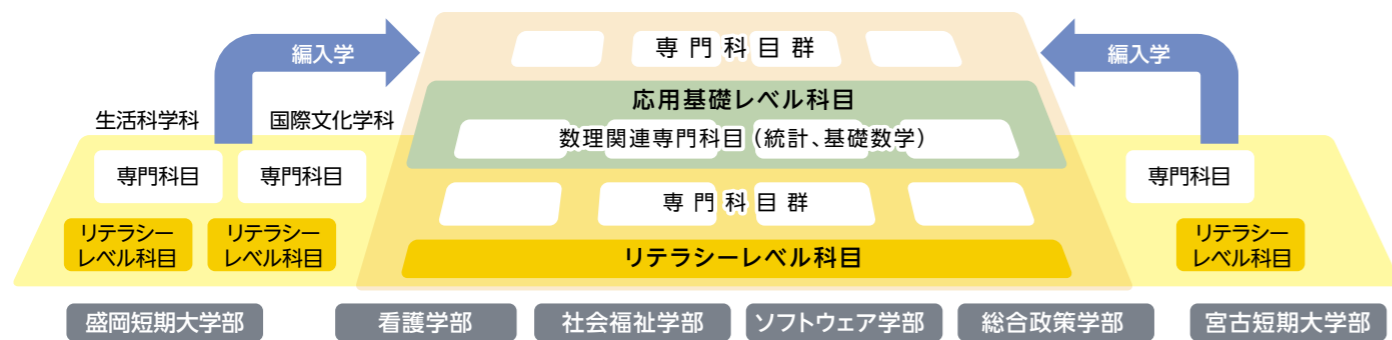
研究種目	研究課題	本学における研究代表者
1 基盤研究(C)(基金)	日ロ領土問題における千島の戦争とその記憶について	黒岩 幸子
2 基盤研究(C)(基金)	プラス要因・マイナス要因を考慮した実時間型観光スポット推薦システムの研究	佐々木 淳
3 基盤研究(C)(基金)	IoTセンサ群を利用した次世代広域道路状況情報プラットフォームに関する研究	柴田 義孝
4 基盤研究(C)(基金)	Development of Fast and Highly Effective Feature Subset Selection Algorithms based on Novel Integration of Quantum Computing and Machine Learning	チャクラボルティ パサビ
5 基盤研究(C)(基金)	Healthcare Risk Prediction on Data Streams Employing Cross Ensemble Deep Learning	藤田 ハミド
6 基盤研究(C)(基金)	「折口信夫旧蔵資料の分析・評価とその成果活用による同時代文学の資料学的研究」	松本 博明
7 基盤研究(C)(基金)	健定同期制御高機能義足の開発	村田 嘉利
8 基盤研究(C)(基金)	エスカレーター内の歩行特性と安全性・快適性に関する基礎研究	元田 良孝

「文理融合データサイエンス教育プログラム」の開始

データで世界を知る データで考える データを専門分野に活用する

本学では、数理・データサイエンス・AIを、今後のデジタル社会の基礎知識であり、すべての学生が身につけておくべき素養ととらえ、「文理融合データサイエンス教育プログラム」を開始しました。大学における学び・研究、将来の仕事・生活に役立つ数理・データサイエンス・AIの知識・技術を、学生所有のノートパソコンを活用しながら体系的に学びます。このプログラムは、本学の全学生(短期大学部を含む)を対象としており、すべての学生が身につけるべき基礎的な「リテラシーレベル」と、さらに発展的に学ぶ「応用基礎レベル」があり、それぞれに学修目標・修了要件が定められています。

から体系的に学びます。このプログラムは、本学の全学生(短期大学部を含む)を対象としており、すべての学生が身につけるべき基礎的な「リテラシーレベル」と、さらに発展的に学ぶ「応用基礎レベル」があり、それぞれに学修目標・修了要件が定められています。



・学修目標

リテラシーレベル	数理・データサイエンス・AIが社会でどのように活用されているのかを理解し、自らの専門分野の専門分野の学びに活用することができるための基礎的素養を身につける。
応用基礎レベル	リテラシーレベルの発展的な内容を理解し、自らの専門分野の課題解決に数理・データサイエンス・AIを応用するための基礎能力を身につける。

・修了要件

科目	修了要件		備考
	リテラシーレベル	応用基礎レベル	
大学で学ぶ・大学を学ぶ	必修2単位		1年次の全学共通科目
情報リテラシー	必修2単位		
統計関連科目		選択2単位以上	統計学の基礎(看護学部) 統計学(社会福祉学部) 統計学(ソフトウェア情報学部) 統計学I(総合政策学部)
確率の世界		選択2単位以上	1~4年時の全学共通科目
いわて学B		選択2単位以上	
データサイエンス入門		必修2単位	2~4年時の全学共通科目
データサイエンス応用I		必修2単位	3~4年時の全学共通科目
データサイエンス応用II		必修2単位	

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(MDASH)への申請

文部科学省では、デジタル時代の「読み・書き・そろばん」である「数理・データサイエンス・AI」の基礎などの必要な力を全ての国民が育み、あらゆる分野で人材が活躍する環境を構築するため、大学等の数理データサイエンス教育に関する正規課程教育のうち、一定の要件を満たした優れた教育プログラムを認定し、多くの大学等が数理・データサイエンス・AI教育に取り組むことを後押しする制度を設

けています。これが「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(MDASH)」です。

この制度には、「リテラシーレベル」と「応用基礎レベル」の2つの認定があり、本学の「文理融合データサイエンス教育プログラム」は、令和5年には「リテラシーレベル」へ申請を行い、令和7年度には「応用基礎レベル」への申請を予定しています。

第1期「国際教養士」の誕生

副専攻「国際教養教育プログラム」の特徴

令和2年度の基盤教育科目の改定と同時に、本学において「地域社会への貢献」と共に重視している「国際社会への貢献」のさらなる実現に向け、副専攻(※)「国際教養教育プログラム」を開設しました。

本プログラムでは、異文化理解、多文化共生の可能性を考え、現状のグローバル社会の課題を検討するとともに、多言語の習得を目指しています。全課程(規定単位数16単位)を修了した学生に対しては、修了証と「国際教養士」の称号が授与されます。

※副専攻とは、学部・学科の専門(主専攻)に加えて、各学部の専門性を生かしながら、学部の枠を越えて横断的に学ぶことができるプログラムで、本学では、2つの副専攻を開設しています。

平成28年度に開設した副専攻「いわて創造教育プログラム」(令和2年度入学生からは「地域創造教育プログラム」に名称変更)では、修了した学生に対し、修了証と「いわて創造士」の称号(令和2年度入学生からは「地域創造士」に名称変更)を授与していますが、令和4年度は18名が修了し、これまでに48名の学生が「いわて創造士」(「地域創造士」となりました。

副専攻「国際教養教育プログラム」修了生

「国際教養教育プログラム」では、令和4年度に、初めてプログラム修了生を輩出し、第1期「国際教養士」が誕生しました。

第1期生修了証授与式において、修了生代表の社会福祉学部4年の相馬さんからは、「次第にたくさんの人を巻き込んで協力して行うという点では、自らの専攻である社会福祉もフェアトレードを始めとした国際問題も同じであり、他の人にも行動してもらわなければならない理由をどのように説明していくかで、賛同してもらえるか・定着させていけるのかといった根本的な部分は似ているとも考えさせられた」、「本プログラムで学んだ知識や技

法、貴重な経験を胸に思いやりの心をもってこれからもグローバルについて考え続け、世界が少しでも平和になるよう活躍していく」との挨拶がありました。



第1期「国際教養教育プログラム」修了生

新たな海外派遣奨励制度の創設

本庄照子奨学等基金海外留学支援奨励金

本学では、令和2年度に授業料免除を受けている学生を対象として、海外留学支援奨励制度を創設し、学生の海外研修を支援してきましたが、令和4年度に本庄国際奨学財団理事からの本学への寄付による岩手県立大学本庄照子奨学等基金を活用し、新たに海外派遣奨励制度を創設し、3名の学生に給付しました。

【本学の海外留学支援奨励金】

制度	要件	助成額	
		アジア地域	アジア地域以外
岩手県立大学海外支援奨励金	経済的事業のある者(授業料免除を受けている者)	5万円	10万円
本庄照子奨学等基金海外留学支援奨励金	成績優秀者(研修開始前学期末時点のGPA2.6以上)	3万円*	8万円*

*国際教養教育プログラムによる海外研修派遣者には2万円を加算

令和5年度の入学者選抜の状況

岩手県立大学では、入学受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、多様な選抜区分により学生の募集を行っています。

令和5年度入学者選抜においては、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜、社会人選抜などを実施し、実質倍率は4大学部で2.6倍（前年度比0.5ポイント減）、大学

院で1.1倍（前年度と同じ）、盛岡短期大学部で1.2倍（前年度比0.1ポイント減）、宮古短期大学部で1.0倍（同0.2ポイント減）となっています。

本学では、高大連携事業や入試広報活動を通じて、入学志願者の確保に努めるとともに、入試改善に取り組んでいます。

令和5年度入学者選抜結果

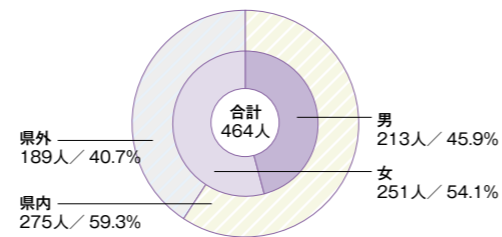
（単位：人、倍）

学部	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
看護学部	90	363	222	96	2.3
社会福祉学部	90	392	287	110	2.6
社会福祉学科	50	237	167	62	2.7
人間福祉学科	40	155	120	48	2.5
ソフトウェア情報学部	160	567	436	177	2.5
総合政策学部	100	478	334	114	2.9
計	440	1,800	1,279	497	2.6
学部（編入学）	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
看護学部	10	5	5	4	1.0
社会福祉学部	10	14	13	9	1.4
社会福祉学科	5	6	5	4	1.2
人間福祉学科	5	8	8	5	1.6
ソフトウェア情報学部	10	26	26	12	2.2
総合政策学部	10	21	21	12	1.8
計	40	66	65	38	1.7
大学院	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
看護学研究科看護学専攻	13	12	12	12	1.0
社会福祉学研究科社会福祉学専攻	18	13	13	9	1.4
ソフトウェア情報学研究科ソフトウェア情報学専攻	50	29	29	28	1.0
総合政策研究科総合政策専攻	13	5	5	4	1.3
計	94	59	59	53	1.1
盛岡短期大学部	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
生活科学科	50	106	93	78	1.2
生活デザイン専攻	25	48	44	39	1.1
食物栄養学専攻	25	58	49	39	1.3
国際文化学科	50	121	115	92	1.3
計	100	227	208	170	1.2
宮古短期大学部	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
経営情報学科	100	148	139	135	1.0

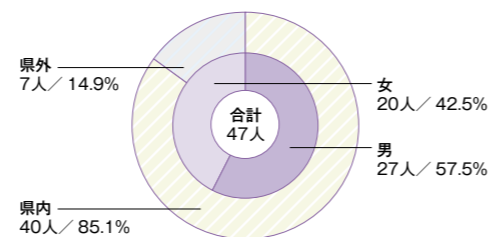
（注）実質倍率＝受験者数÷合格者数

令和5年度入学者の内訳

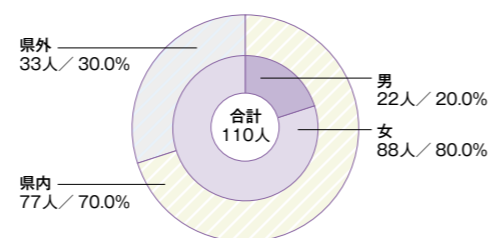
【学部】



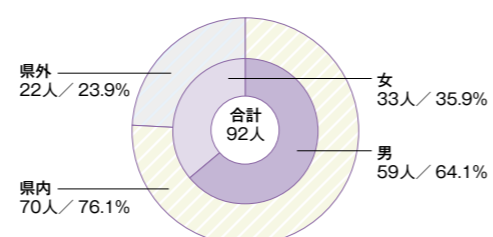
【大学院】



【盛岡短期大学部】



【宮古短期大学部】



高大連携の取組

本学では、高等学校と大学間の相互理解を促進し、意欲のある高校生が大学での学修に触れる機会を設けるため、様々な高大連携の取組を実施しています。

対面での入試説明会や相談会に加え、随時、入試オンライン相談会を開催しているほか、大学見学では、大学の説明と施設の見学を実施しています。

また、本学での学修内容に触れる機会として、授業見学、高校への出張講義、サマーセミナー等を開催しています。

大学見学や相談会の際には、学生で構成する学生広報団体（Campus Attendant キャンパス・アテンダント）が自身の体験談発表やキャンパスガイドを実施し、実際の学生の声が聴けるということで好評を得ています。



キャンパス・アテンダントによるキャンパスガイド

高大連携事業	内容
高校訪問	入試の情報提供や本学への意見を聴取。
出張講義・オンライン模擬講義	高校等での模擬講義、探究学習への支援を実施。高校等の希望に応じてオンラインで実施。
大学見学	高校生等の見学の受入。
授業見学	高校生の講義見学を受入。
高校教員大学説明会	高校教員へ各学部の特徴や入試の概要説明。
入試相談会	沿岸・県北地区等の高校会場、盛岡（アイーナキャンパス）等で高校生・保護者向け入試相談会を開催。
入試オンライン相談会	入試相談会をオンラインで開催。
キャンパス・アテンダント（C A）活動	説明会等での体験談発表やキャンパスガイド等を実施。高校生の質問・相談の場C Aカフェを実施。
サマーセミナー	夏休みや休日の期間を活用し、「研究室体験」「授業体験」の機会を提供。
いわて高校生小論文コンクール	県内の高校生向けに小論文を募集。
オープンキャンパス	入試説明会及びキャンパス・アテンダント（C A）企画（キャンパスツアー、イベント等）を実施。

インターネット出願の導入

令和4年度入学一般選抜から、インターネット出願を導入しました。志願者にとっては出願書類作成の効率化が図られることに加えて、入学検定料の支払い方法をクレジットカードやネットバンキングにも拡張するとともに、

志願に必要な項目の記入漏れを防ぐ効果があります。また、志願者登録情報のデジタル化により志願者受付業務の効率化が図られることから、令和5年度入学選抜からはインターネット出願対象を大学院まで拡大しました。

令和4年度の卒業生及び就職の状況

令和4年度の卒業生は、4大学部460人、大学院修了者48人、盛岡短期大学部101人、宮古短期大学部103人、計712人でした。

卒業生の進路について、4大学部は、就職内定者405人（うち県内172人、県外233人）、大学院等進学35人、その他13人でした。盛岡短期大学部は、就職内定者69人（うち

県内44人、県外25人）、進学者27人、その他4人、宮古短期大学部は、就職内定者70人（うち県内39人、県外31人）、進学者25人、その他6人でした。

就職内定率は、4大学部98.3%、盛岡短期大学部98.6%、宮古短期大学部97.2%でした。

令和4年度の卒業生の状況

令和5年3月卒業生における数値(単位:人)

学部	看護学部	社会福祉学部	ソフトウェア情報学部	総合政策学部	合計
卒業生	89	105	161	105	460
就職希望者	88 (98.9)	94 (89.5)	131 (81.4)	99 (94.3)	412 (89.6)
就職内定者(うち県内)	88 (37)	94 (45)	128 (30)	95 (60)	405 (172)
就職内定率	100%	100%	97.7%	96.0%	98.3%
進学者	0	7	26	2	35
その他	1	4	4	4	13

大学院修了者	看護学研究科		社会福祉学研究科		ソフトウェア情報学研究科		総合政策研究科		合計
	博士前期	博士後期	博士前期	博士後期	博士前期	博士後期	博士前期	博士後期	
	4	0	8	1	30	2	3	0	48

短大	盛岡短期大学部	宮古短期大学部
卒業生	101	103
就職希望者	70 (69.3)	72 (69.9)
就職内定者(うち県内)	69 (44)	70 (39)
就職内定率	98.6%	97.2%
進学者	27	25
その他	4	6

(注)「就職希望者」欄の()内の数字は、卒業生に対する就職希望者の割合
 (注)「就職内定率」は就職希望者に対する就職内定者の割合であり、令和5年3月31日現在の内容を以て決定
 (注)その他は、療養に専念、家事従事、進学・留学準備、一般的な就職の概念になじまない就業(準備)の者、社会人学生等

就業力育成の取組

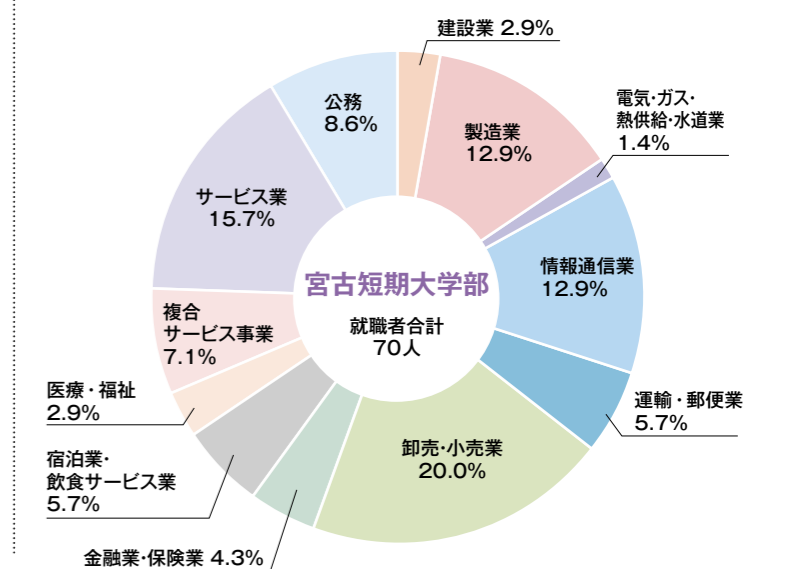
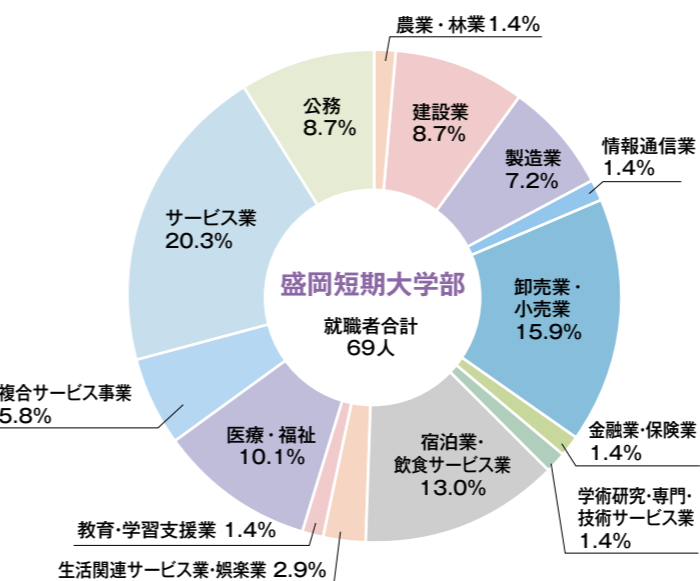
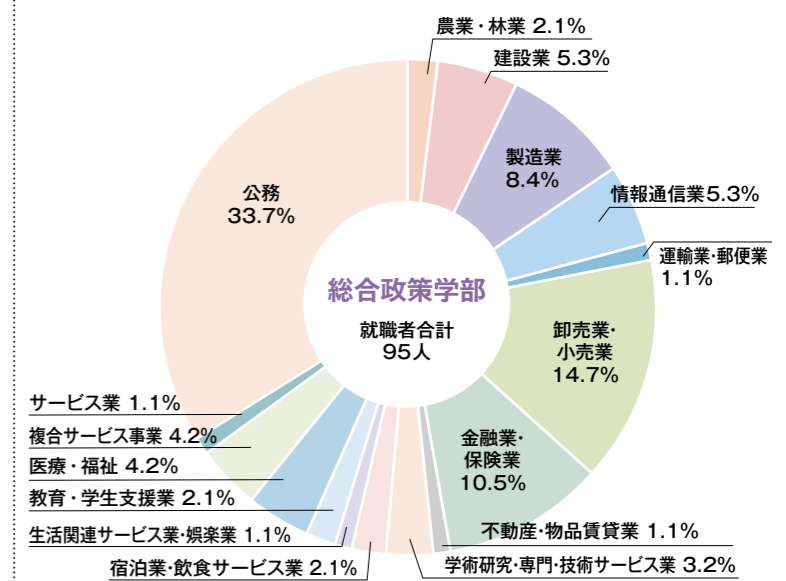
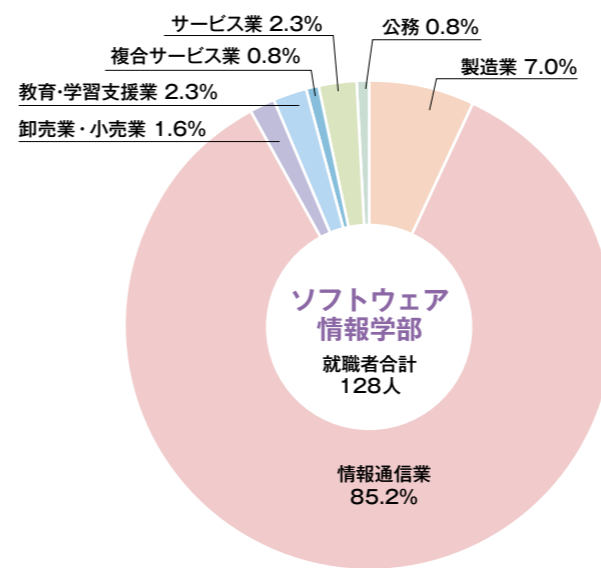
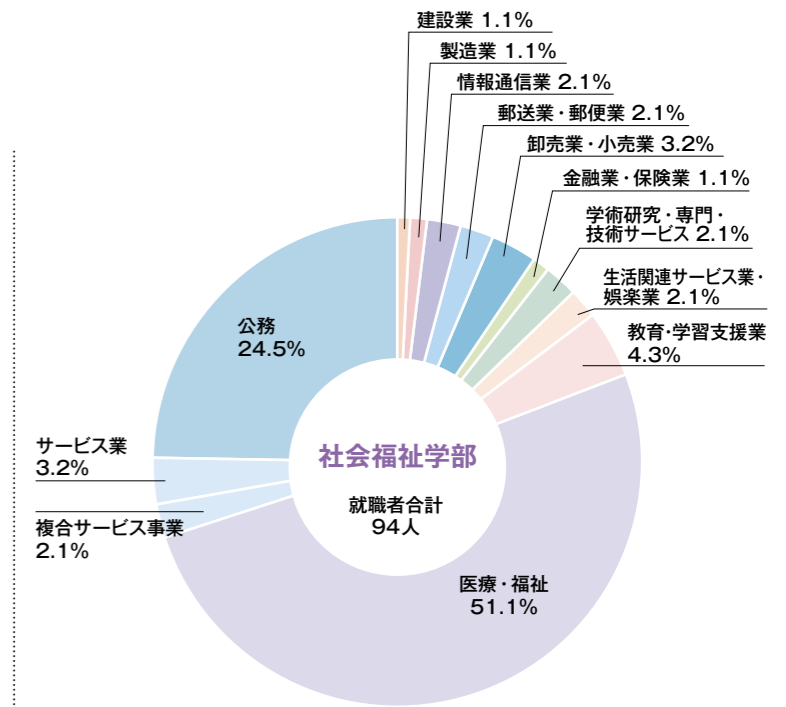
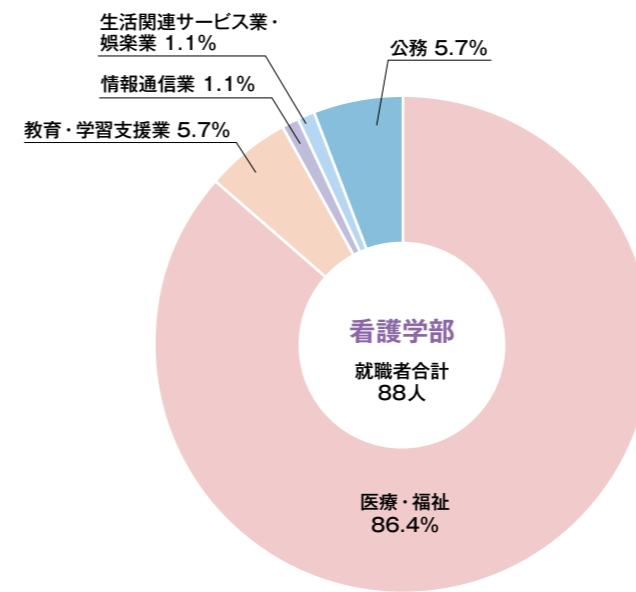
本学では、学生の就業力の育成と進路実現に向けた支援として、次のような取り組みを行っています。

- ・就職ガイダンスを通し、学部の特性やコロナ禍における企業の採用活動の動向、インターンシップの現状、就職活動の早期化等、学生が就職活動を行う上で必要な情報を提供しています。令和4年度は34回のガイダンスを実施しました。
- ・インターンシップの意義や参加の心構え、ビジネスマナー等、学生がインターンシップに関する理解を深めるためのガイダンスや事前学習を行っています。岩手県内の事業所での就業体験を仲介する「インターンシップin東北」について、令和4年度は2年ぶりに対面で実施しました。
- ・公務員志望の学生に対し、公務員に関する基礎知識の習得や試験対策、公務員として働く卒業生との座談会の開催など、学生の具体的な目標に対応した支援を行っています。

- ・本学独自の「就職活動ロードマップ」を用いて、学生が就職活動を行う上で必要なスキルの達成度を測定し、学生の自己評価が低い項目については支援の改善を行っています。



令和4年度卒業生の主な就職内定先

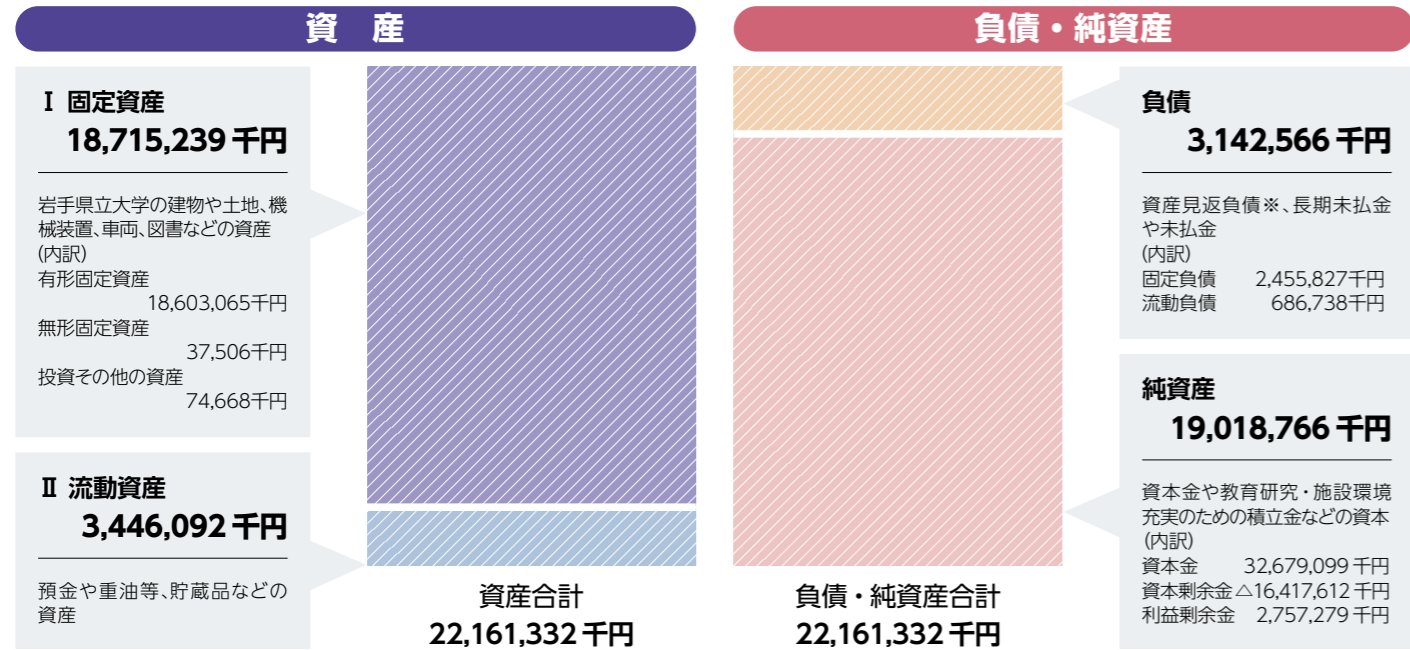


多様な資金の獲得と効果的な大学運営

令和4年度は、前年度に引き続き、競争的資金や受託研究費、共同研究費の獲得に努めたほか、積極的に国の補助金や受託事業を活用し、地域における産学共同研究事業や学生の就職支援事業、次世代の人材育成業務などに取り組みました。このほか、事業内容の見直しや重点

化に努め、事務事業の効率化を図りながらコスト削減に取り組む一方で、今年度も目的積立金を財源とした「学長特別枠」を設け、教育の質の向上に資する事業に対し計画的に予算を配分し、教育・研究活動の充実・強化に努めました。

岩手県立大学の財務状況 (令和5年3月31日現在)



※資産見返負債とは、法人が固定資産を継承・取得した場合に、当該資産の見返りとして同額を負債に計上し、減価償却処理により費用が発生する都度、取崩して収益化する、減価償却による損益計算への影響を与えないための公立大学法人特有の処理です。(注)端数処理を行っているため、合計値が合わない場合があります。

令和4年度の収支状況<収入>

岩手県立大学における収入の61.3%は、岩手県からの運営費交付金です。授業料、入学金及び検定料、産学連携等研究収益等から資産見返負債戻入を除いた自主財源の割合は35.9%です。

項目	金額(千円)	割合(%)	備考
運営費交付金	3,813,542	61.3	県から運営費として交付されたもの
授業料	1,240,610	20.0	大学独自の収入(自主財源)
入学金及び検定料	218,694	3.5	
産学連携等研究収益	79,332	1.3	企業や団体から委託された研究及び事業における収入
補助金等	290,477	4.7	施設等整備事業費補助金、寄附金等
寄附金	11,240	0.2	
資産見返負債戻入	174,572	2.8	
その他	120,458	1.9	
目的積立金取崩	270,232	4.3	
合計(A)	6,219,162		

※資産見返負債戻入とは、資産見返負債から資産減価償却額の見合いを収益化したものです。(注)端数処理を行っているため、合計値が合わない場合があります。

令和4年度の収支状況<支出>

支出のうち、教育、研究等に係る経費はおよそ32.9%です。

項目	金額(千円)	割合(%)	備考
教育経費	1,281,071	21.8	大学教育及び研究等に係る経費
研究経費	476,054	8.1	
教育研究支援経費	177,583	3.0	
産学連携等研究経費	75,710	1.3	企業や団体から委託された研究及び事業に係る経費
役員人件費	15,707	0.3	役員、教員、非常勤講師及び事務局等の職員人件費
教員人件費	2,443,339	41.6	
職員人件費	876,752	15.0	
一般管理費等	521,943	8.9	光熱水費、修繕費、消耗品費等
合計(B)	5,868,164		

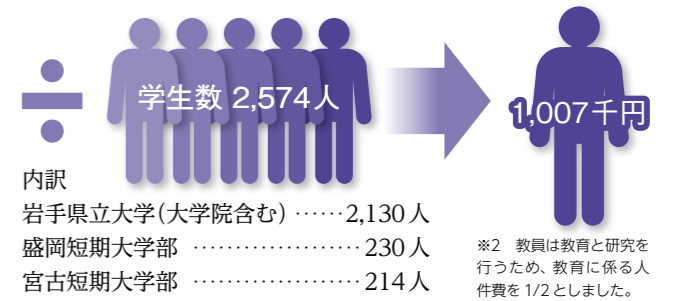
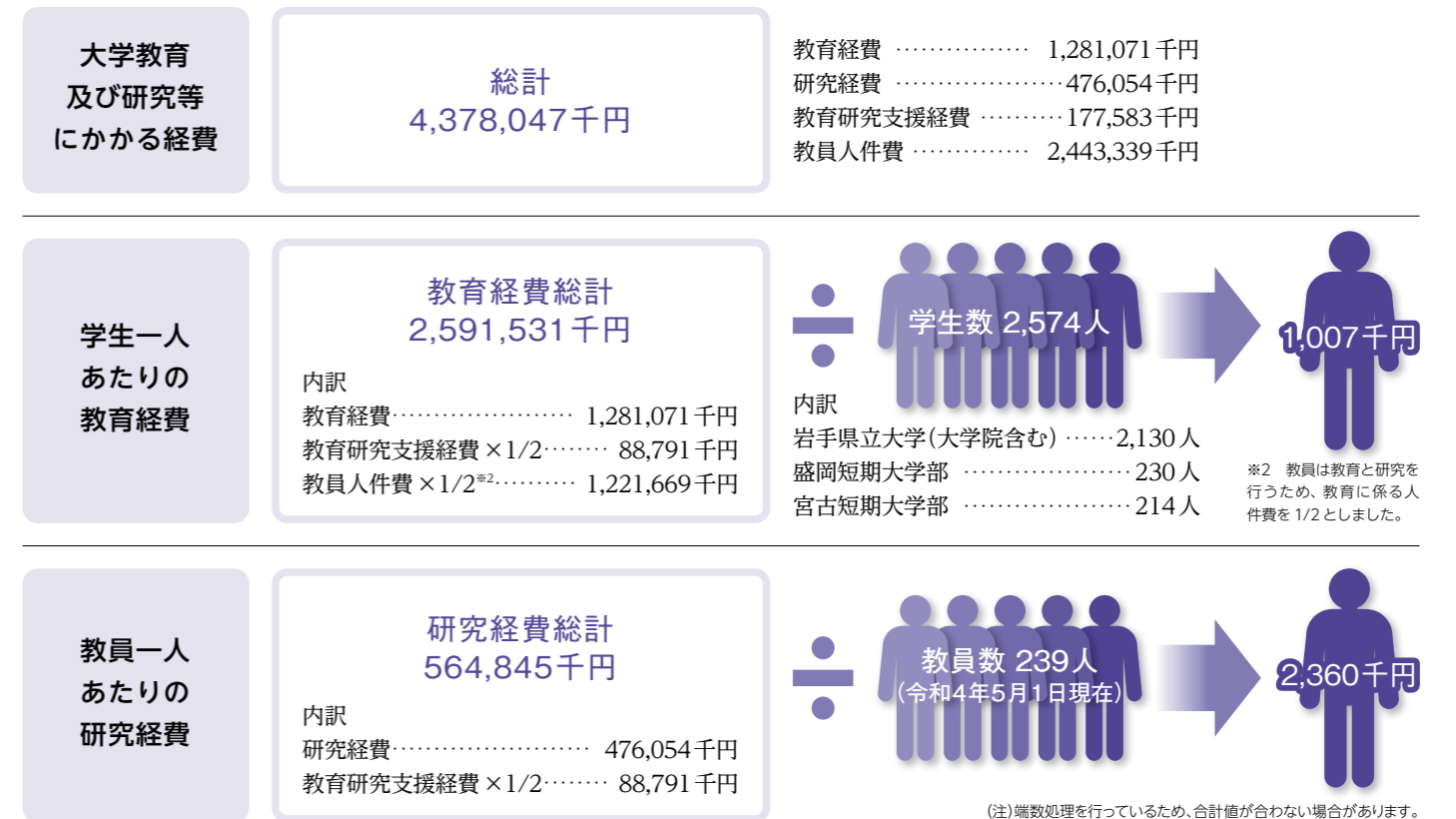
令和4年度収支(A-B)

350,999 千円

学生及び教員一人あたりにかかる経費[令和4年度]

令和4年度の大学教育及び研究等における経費は、岩手県立大学全体で損益経常費用合計58億6,816万円でした。教育経費と教育研究支援経費、教員人件費の一部を含めた、

学生一人あたりの教育経費は約101万円です。また、教員一人あたりの研究経費は約236万円です。



(注)端数処理を行っているため、合計値が合わない場合があります。

column

岩手県立大学未来創造基金

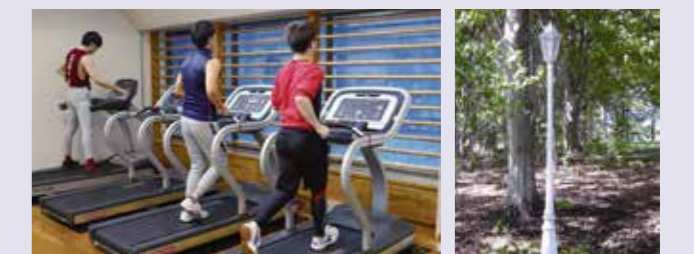
本学では、開学20周年を機に、大学の運営を安定化させ、教育研究活動を更に充実させていくための財源として、平成28年4月に「岩手県立大学未来創造基金」を設置しました。

本基金は趣旨に賛同していただける個人、法人、団体等の皆様からの寄附金(1口1,000円)及びその運用益をもって構成するものであり、次の事業に充てることとしています。

- 教育及び研究活動の充実を図るために必要な事業
 - 学生及び外国人留学生に対する支援事業
 - 産学官連携及び地域・社会貢献に係る活動を推進するために必要な事業
 - 被災地の復興を支援するために必要な事業
 - 施設整備及び大学運営等の充実を図るために必要な事業
- これまでにいただいた寄附金は、学内のアスレチック設備の

充実や構内の外灯設置などに活用しています。

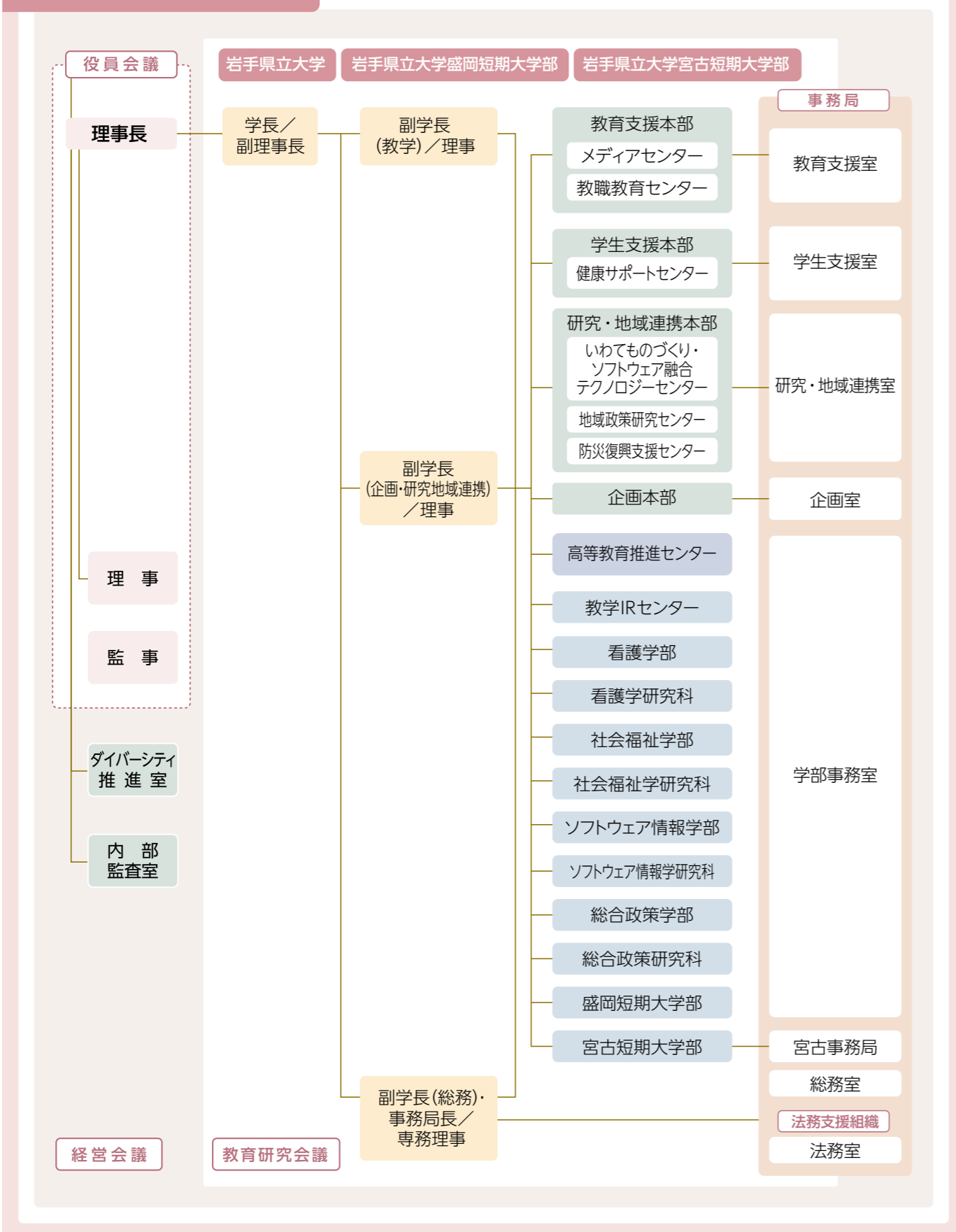
今後も、地域に根ざす大学として、本基金を活用しながらいわたの未来づくりに貢献する人材育成と地域に貢献する取組をさらに広げていきたいと考えておりますので、皆様の御理解と御支援をよろしくお願いいたします。



トレーニング室に設置されたトレッドミル

構内に設置された外灯

公立大学法人岩手県立大学



役員

公立大学法人岩手県立大学

	岩手県立大学	岩手県立大学盛岡短期大学部	岩手県立大学宮古短期大学部
理事長	千葉茂樹		
副理事長	鈴木厚人		
専務理事	宮野孝志		
理事	亀田昌志		
理事	石堂淳		
理事(非常勤)	藤村文昭		
理事(非常勤)	小原忍		
監事(非常勤)	榎田裕之		
監事(非常勤)	三河春彦		
	学長	鈴木厚人	
	副学長(企画・研究地域連携) / 研究・地域連携本部長	亀田昌志	
	副学長(総務) / 事務局長	宮野孝志	
	教育支援本部長	猪股俊光	
	学生支援本部長	三上邦彦	
	企画本部長	橋本浩二	
	看護学部長 看護学研究科長	福島裕子	
	社会福祉学部長 社会福祉学研究科長	盛岡短期大学部長 川崎雅志	宮古短期大学部長 松田淳
	ソフトウェア情報学部長 ソフトウェア情報学研究科長	高田豊雄	
	総合政策学部長 総合政策研究科長	高嶋裕一	

※副学長(教学)については、当分の間、鈴木学長が事務を取り扱う。



教職員数

	岩手県立大学	岩手県立大学盛岡短期大学部	岩手県立大学宮古短期大学部
教授	64	8	4
准教授	68	8	8
講師	37	6	3
助教	18	2	0
助手	8	1	0
研究員等	-	-	-
教員計	195	25	15
職員		169	
教職員計		404	

※令和5年5月1日現在



滝沢キャンパス

看護学部・社会福祉学部・ソフトウェア情報学部・
総合政策学部・盛岡短期大学部・高等教育推進センター・
看護学研究科・社会福祉学研究科・ソフトウェア情報学研究科・
総合政策研究科

〒020-0693 岩手県滝沢市巢子 152-52
TEL 019-694-2000 FAX 019-694-2001
〈施設概要〉敷地面積（実測）35.1ha
建物面積（延べ床）81,304㎡

地域連携棟（いわてものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンター、地域政策研究センター）

〒020-0611 岩手県滝沢市巢子 152-89
TEL 019-694-3330 FAX 019-694-3331



宮古キャンパス 宮古短期大学部

〒027-0039 岩手県宮古市河南 1-5-1
TEL 0193-64-2230 FAX 0193-64-2234
〈施設概要〉敷地面積（実測）5.6ha
建物面積（延べ床）8,664㎡



アイーナキャンパス サテライトキャンパス

〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通 1-7-1
いわて県民情報交流センター（アイーナ）7階
TEL 019-606-1770 FAX 019-606-1771
〈施設概要〉学習室、セミナー室等12室

岩手県立大学 アクセスマップ

滝沢キャンパスまでの経路

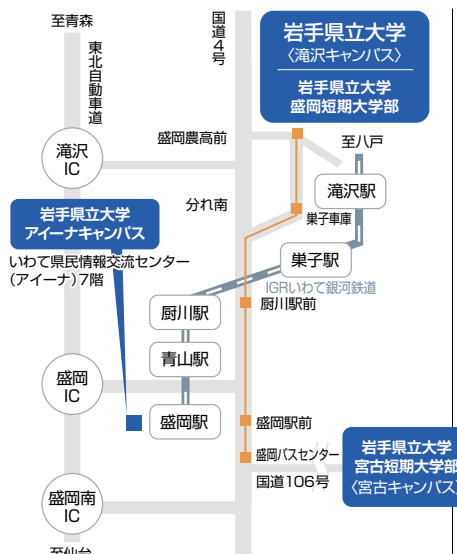
■バスで
岩手県交通「盛岡駅東口バス停②」から約40分、「県立大学前」バス停下車すぐ。

■鉄道で
IGRいわて銀河鉄道「盛岡駅」から15分、「滝沢駅」下車、徒歩約15分。
※「滝沢駅」から「県立大学前」までの路線バスもあります。

■車で
東北自動車道「滝沢IC」から約5分（国道4号を青森方面へ出て、2つめの交差点を右折してすぐ）。

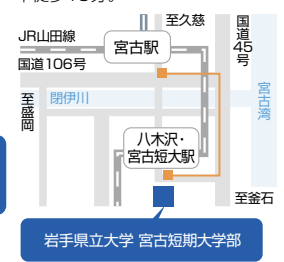
アイーナキャンパスまでの経路

盛岡駅西口から徒歩3分



宮古キャンパスまでの経路

盛岡から106急行バスまたはJR山田線で宮古駅まで約2時間。宮古駅バスのりば2番線から「B02八木沢循環」乗車、「宮古短大前」バス停下車すぐ。または宮古駅から三陸鉄道リアス線で「八木沢・宮古短大駅」下車徒歩15分。



詳しくはHPをご覧ください

岩手県立大学

検索